

がん診療におけるPDCAサイクルの実施状況について

分野	番号	課題名	目標設定	Plan	Do	Check	Act
緩和ケア	1	緩和ケアチームの充実。	チーム活動の質を向上する	緩和医療学会のセルフチェックプログラムに参加。	Act.Planシートを年間に渡り共有し、計画に沿って実施。	年間を通して昨年度より約3割、依頼件数の増加が図られた。	症例毎の目標及び評価実施を明確にするため、緩和ケアチームの記入用紙を活用し情報共有を図った。 また、全ての医療従事者が気軽に緩和ケアチームへ依頼ができるよう手順書の整備を行い、周知した。 次年度についても更なる評価・見直しを実施する。
	2	がん診療連携拠点病院等において、基本的な緩和ケアを実践できる人材の育成が必要である。	「がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」受講率を上げる。 ①1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師:90%以上の受講 ②自施設に所属する臨床研修医:100%の受講	1. 研修対象者かつ未受講者を把握。 2. 対象者に直接、研修参加を促す連絡をする。(e-learningを含め) 3. 対象者の上司に部下の研修参加状況を伝え、上司からの働きかけを依頼する。 4. 院内の人事部門と連携を図り、初期臨床研修医に対して受講の呼びかけをする。 5. 看護師、薬剤師など医師以外の職種にも参加を呼びかける。	中止決定前に参加希望していた職員については、来年度の情勢にもよるが開催する方向で周知を図る。	新型コロナウイルス感染症の今後の情勢にもよるが、募集や内容の制限を検討し、来年度開催する方針とした。	来年度開催予定としているため、早々に医師への周知や県への連絡等を円滑に行う。特に、受講者にIDとパスワードの管理の徹底を依頼する。
地域連携	1	地域連携の推進は各病院の共通の課題である。地域差も大きくその方法は様々である。	各病院の地域連携推進の取り組みを評価し、共有する。	1. 紹介患者のスムーズな受け入れ 2. パスを利用した開業医との連携 3. 返信の管理(初回、退院時) 4. 診療体制についての広報	コロナ禍により連携懇談会等の開催は困難なため、当院の取組み等について、医療機関に対し郵送や直接訪問し広報する。	紹介患者数、逆紹介率を把握する。	医療情報の発信方法の工夫や、紹介が減っている地域の医療機関を重点的に訪問し、連携強化を図る。
	2	紹介患者・逆紹介患者の増加のための方策。	開業医とのスムーズな連携、広報の充実。		1. 医療機関への訪問 2. FAX診療申込書の改訂 3. ホームページの充実	紹介患者数、逆紹介率を把握する。	紹介が減っている地域の医療機関を重点的に訪問し、連携強化を図る。
相談支援	1	相談員基礎研修の未受講者がいる現状がある。	1. 相談支援の質向上のため、相談員基礎研修や県相談員研修会を受講する実務者が増える。 2. 拠点病院においては、認定がん専門相談員が1人はいる体制になる。(2021年頃までに)	がん相談支援センター基礎研修(1)(2)未受講者に受講を推奨。	がん相談支援センター基礎研修(1)(2)未受講者に受講を推奨。	がん相談支援センター基礎研修(1)(2)の未受講者のなかで新たに受講したのは一名。	来年度は研修の案内を確認後、他の研修の状況みながら、未受講者に案内する。
教育研修	1	チーム医療研修、看護師、薬剤師研修を充実させる。	新型コロナウイルス感染症のため、集合型の研修会ができないため、web形式の研修会の方法を確立する。	院内でWeb会議ツール使用にかかる体制を整える。また、実際に使用する。	院内におけるZoomの運用要綱を作成した。また、院内外においてZoomウェビナーを活用したYouTubeライブ配信型の研修や講義を実施。	今後運用していく中で問題も出てきかねないが、適宜改善していく。	今後も医療機関同士での研修において活用していく。
	2	「緩和ケア病床運営部会」主催による院内勉強会を実施 事例検討会を行うことで、実践的な緩和ケアの知識を身に着ける。	緩和ケアに関する勉強会を行い、病院職員全体の知識の向上、病院全体における緩和ケア提供体制の向上をはかる。	1. 勉強会の告知について ・一覧表を作成し配布 ・勉強会開催前(1~2週前を目途)に再度告知 2. 院内で情報共有できるツール(TRIO、看護部情報共有フォルダ)を活用し勉強会を告知 3. 勉強会の実施 ・開催時間を変更 (参加しやすいように昼食時に実施) ・年2回予定 ・テーマ:疼痛コントロールなどを含めた事例検討会の実施 ・勉強会終了後にアンケートを作成し、次年度に生かす	12月、2月に勉強会を実施予定 感染対策を行いながら、左記を実施していく。	新型コロナウイルス感染症の影響が続き、勉強会が実施できなかった。	来年度の勉強会については、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、グループワークは行わず、講義形式で開催をする。
	3	質の高いがん薬物療法の提供	1. チーム医療の推進 2. がん薬物療法レジメンの標準化 3. エビデンスに基づく支持療法やケアの標準化	・がん薬物療法ワーキング設立 ・院外薬局との連携強化 ・通院治療センター(がん薬物療法レジメン)のホームページ開設 ・外来栄養指導の体制整備 ・がん患者指導管理の体制整備 ・患者へのレジメンシールの提供	・レジメン照会に応じる体制整備 ・がん薬物療法レジメンの診療科別からがん種別管理の整備 ・支持療法のマルチセット化の共有	患者満足度は充足され、安全で質の高いがん薬物療法を提供する体制が構築された。	連携充実加算算定件数増加を目指し、問い合わせやトレーシングレポートから、ホームページ(がん薬物療法レジメン)やトレーシングレポートフォームを見直し改善していく。 継続した栄養指導が行えているか、初回、2回目以降の栄養指導件数や介入による栄養状態の変化を評価し、課題を明確にする。 経口抗がん剤の処方漏れを防止する体制を整える。